

宇都宮市立今泉小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「見通しをもって学習に取り組める授業デザイン」「今泉モデル」を活用した授業を展開する。	児童一人一人が興味関心をもつことができる導入を工夫したり、目的意識をもって頑張ることができるような目標や学習内容の設定を行い、主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせたりする。また、考える時間を十分に確保することで、考えを深めたり広げたりできるようにする。授業の終末には、自らの学びを振り返る時間を確保することができるようにする。	「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」は、6学年中4学年の肯定割合が市の平均を上回った。「グループなどの話合いに自ら進んで参加している。」は、6学年中2学年、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の肯定割合は、4学年中2学年の肯定割合が市の平均を上回った。
児童一人一人が学ぶ喜びを味わうことができる支援を工夫する。	「自分でできた」と子ども一人一人が感じることができる授業を工夫したり、学習に主体的に取り組むことができる学習環境を整えたりする。	「学習して、いろいろなことが分かったりできるようになったりすることはうれしい。」の肯定割合は、6学年中5学年で市の平均を上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

全国学習学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査の結果では、友達と考えを交流する中で、自分の考えを広げたり深めたりすることや自分の考えをまとめて伝えることを苦手としている児童が多いことが分かった。また、記述問題での無回答率も県や全国を上回っているものもあり、自分の考えを分かりやすく書いたり伝えたりする力に課題があることが分かった。本調査でも、「グループなどの話合いに自ら進んで参加している」の本校の6学年の肯定割合の平均は78.9%、「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」の本校の4学年の肯定割合の平均は69.4%でどちらも8割を切っている。各教科において、自分の考えを整理して書く活動を取り入れ、考える力や表現する力を高めていくことが必要である。また、友達を考えを聞いたり、自分の考えと比較したりする活動を通して、自分の考えに自信をもったり伝えることへの楽しさを味わったりすることができるような授業展開を工夫していく。個人用パソコンも積極的に活用し、様々な形態で協働的に学ぶ機会を設けるようにしていく。